

令和5年度 家庭総合2年(2単位) シラバス

使用教科書	高等学校家庭総合 持続可能な社会をつくる(第一学習社)	副教材	家庭総合学習ノート(第一学習社)
-------	-----------------------------	-----	------------------

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法	
1	4	1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計						
		1. 生涯発達する自分一人ひとりのつながりのなかで-	・生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見直し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。	○			・授業態度 ・単元テスト ・ノート提出	
		2. 青年期を生きる	・自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める。	○				
		5	3. キャリアの形成	・自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。	○			
			4. ワーク・ライフ・バランスを求めて	・固定的な性別役割分業意識の見直し、男女の平等と相互の協力などを取り上げ、生涯を見通した中で青年期をどのように生きるかについて理解を深める。	○	○	○	
			第2節 家族・家庭と社会とのかかわり					
			1. 家族・家庭・世帯	・歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解できるようにする。・世帯の動向にみられる特徴とそれを規定する社会的要因を分析し、検討する。	○			・授業態度 ・単元テスト ・ノート提出
			2. 家族・家庭の働き	・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 ・家族の信頼関係によってつかわれる精神的・社会的な人間形成の重要性について理解する。	○			
			3. パートナーと出会う	・相互の尊重と信頼関係のもとで夫婦関係を築くこと、共に協力して家庭を築くことの意義や重要性について認識する。	○	○		
			4. 結婚と変化する家族	・現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。	○			
			5. 家族に関する法律	・婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭について理解を深める。	○	○		・授業態度 ・定期考査 ・ノート提出
		6	5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事					
			1. 私たちと食事	・食事の役割を認識し、食が心身を育むうえで大切なものであることを理解するとともに、人間の体の生理的周期を知り、なぜ朝食をきちんととる必要があるかを考える。	○		○	・授業態度 ・単元テスト ・ノート提出
			2. 健康に配慮した食生活	・現代の食生活の実情を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。	○	○		
			3. 食生活の変化	・PFC比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。	○			
		4. 持続可能な食生活	・日本の食料自給率の低下や輸入依存の実情を知り、その原因を探るとともに、食料の安定供給について考える。	○	○	○		
		5. 食生活の文化	・日本の風土から生まれた日本食の基本「一汁三菜」を理解し、日本の食文化を知る。	○				
2	9	第2節 栄養と食品						
		1. 人体と栄養	・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とその働きについて理解する。・食品中の成分をどのように分解し、人体の成分として利用しているか、その過程を学ぶ。	○			・授業態度 ・単元テスト ・ノート提出	
		2. 炭水化物	・エネルギー源としての糖質、腸内環境を保つ食物繊維について学ぶ。・食物繊維を含む食品の重要性について学び、必要量の摂取について考える。	○				
		3. 脂質	・エネルギー源として、また体構成物質として働く脂質の役割について学ぶ。・脂肪酸の種類とそれを多く含む食品を知り、健康的な摂取を質と量の両面から学ぶ。	○				
		4. たんぱく質	・体の組織をつくるたんぱく質とそれを多く含む食品について学び、他の食物との組み合わせによるたんぱく質の補足効果を理解する。・アミノ酸についても学習する。	○				
		5. 無機質(ミネラル)	・無機質の種類と働きをそれぞれ多く含む食品について学ぶ。・特に、加齢と骨形成、鉄と貧血の関係などを理解する。	○				
		6. ビタミン	・ビタミンの種類と働き、それらを多く含む食品について学ぶ。	○				
			7. し好食品と健康増進のための食品	・調理加工食品や、調味料・香辛料などの種類と働きについて基本を理解する。・健康増進のための食品について基本的な理解をはかるとともに、切り口の効用や扱い方についても考える。	○			
			第3節 食生活の安全のために					
			1. 食品の選択と保存	・各食品の保存法について取り上げ、理解する。消費期限・賞味期限をもとに食品を正しく選ぶ力を養う。・食品表示、栄養表示を通して内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。	○			・授業態度 ・単元テスト ・ノート提出

	2. 食品の安全と衛生	・食中毒にはどのような種類があるかを知り、食品の取り扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ。 ・食品添加物の用途を理解するとともに、食品に含まれている食品添加物の名称・使用目的などを調べ、購入に際しての選択法を身につける。	○	○		
10	第4節 食生活をデザインする					
	1. 栄養バランスのよい食事	・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。 ・身体活動レベルについて理解し、そのときの自分がどの身体活動レベルにあたるかを確認する。	○			・授業態度 ・単元テスト ・ノート提出
	2. 食品群と摂取量のめやす	・食事摂取基準を満たすためには、どの食品をどれだけ食べればよいかというめやすを示した「食品群」について学び、「食品群別摂取量のめやす」を活用できるようにする。	○	○		
	3. ライフステージと食事	・ライフステージごとに、必要な栄養素や嗜好の違いを理解する。	○			
	4. 献立作成の手順	・ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形でつくれるようにする。	○	○	○	
	5. 調理の基本	・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 ※調理実習を年間5回実施予定	○	○	○	
11	8章 経済生活をつくる 第1節 私たちの暮らしと経済					
	1. 人生とお金	・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。	○			・授業態度 ・定期考査 ・ノート提出
	2. 収入と支出のバランス	・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。	○		○	
	3. 将来の経済生活を考える	・家庭経済と国民経済とのかかわり、経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響をおよぼしていることを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。	○			
	第2節 消費者問題を考える					
	1. 契約とは	・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例を通して、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約した後も、考え直して解約できる方法があることを理解する。	○		○	・授業態度 ・定期考査 ・ノート提出
	2. 消費者問題はなぜ起こるのか	・大量生産・大量消費の時代に、商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 ・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていくという態度を養う。 ・有用な生活情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解する。	○		○	

12	3. 多様化する支払い方法とリスク防止	・販売方法, 支払い方法が多様であることを知り, 購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・消費者信用について理解し, 利用に際しては, 慎重に行う意識と対応策を身につける。	○		○		
	4. 消費者の自立と行政の支援	・消費者関連のさまざまな法律が制定され, 国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 ・消費者は, 生産者や行政に自分たちの意向を伝え, その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 ・さまざまな消費者問題の発生の中で, 消費者の権利が制定されたが, 消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに, 消費者一人ひとりに責任があることも理解する。	○	○	○		
3	1	第3節 持続可能な社会をめざして					
		1. 消費生活と持続可能な社会	・持続可能な社会の実現のためには, 私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。	○	○	○	・授業態度 ・定期考査 ・ノート提出
		2. 消費者市民社会をめざして	・環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し, 周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。	○	○	○	
	2	3章 充実した生涯へ					
		1. 超高齢社会を生きる	・生涯を見通して高齢期を捉えることができるようになる。 ・長くなった人生を, 可能な限り充実させるには何が必要か, 自分たちはどう老いていきたいかを考える。	○	○		・授業態度 ・定期考査 ・ノート提出
		2. 人生のなかで高齢期をとらえる	・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。(個人差が大きいことを理解する。)	○			
		3. 高齢期の生活	・ノーマライゼーションの視点から, 高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。		○	○	
		4. 高齢社会を支える	・近年の高齢者福祉の基本的な理念や高齢者福祉サービスなど代表的なものについてふれた上で, 社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。	○	○		
	3	5. 充実した高齢期へ 4章 ともに生きる					
		1. 社会保障制度と社会的連帯	・社会的制度, 社会福祉の基本的な理念, ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。・国や自治体などの制度や行政サービスなどの制度としての支援体制という支え合いの構造について理解する。	○	○	○	・授業態度 ・ノート提出
	2. 人の多様性と社会参加	・異なる背景を持つ人々がともに支え合いながら生きていくことの必要性, 関連する現代の社会の現状について理解する。・ノーマライゼーションの理念を土台にして, 地域のバリアフリーやユニバーサルデザインなど具体的事例を通して考察する。	○	○	○		